

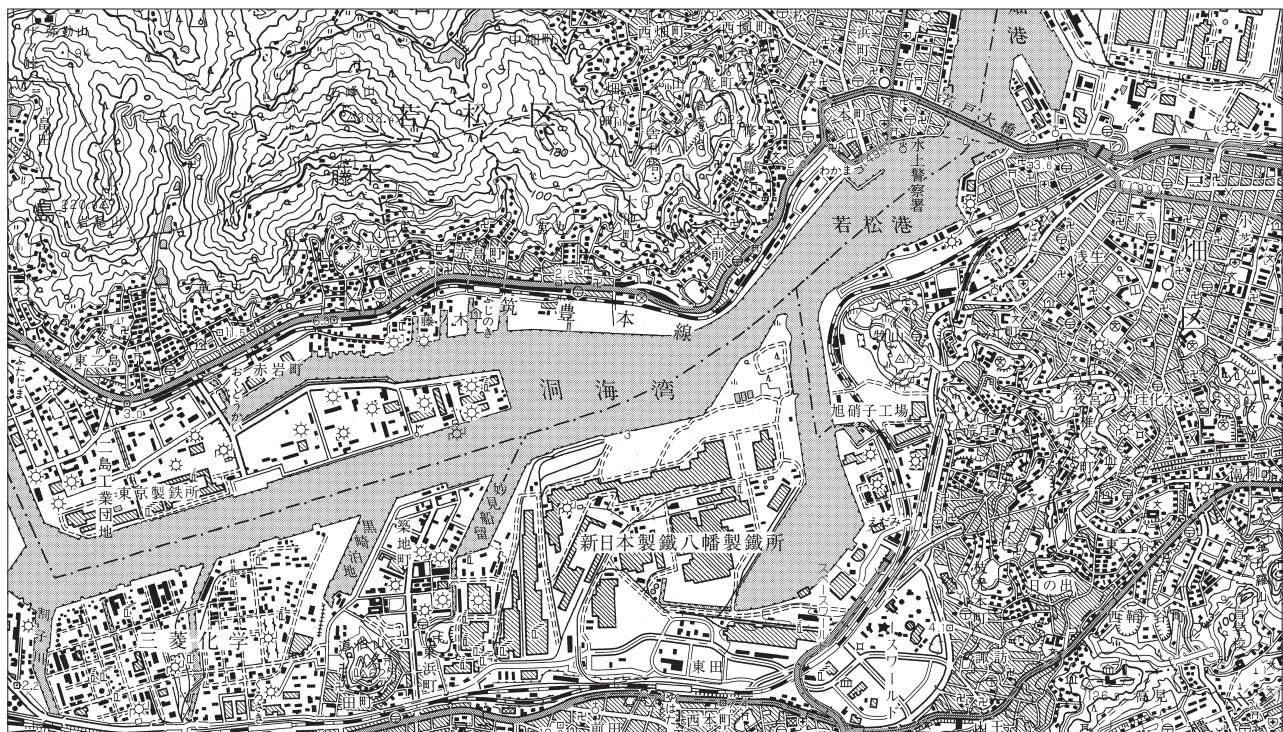
問 1 ヨシキさんは、5万分の1地形図を使って、九州地方北部の特徴を読み取った。資料2は、資料1中のA～Dの範囲を示した地形図である。資料2から読み取った文として不適切なものを、あの①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **17** 。

資料 2

A



B



A

C



D

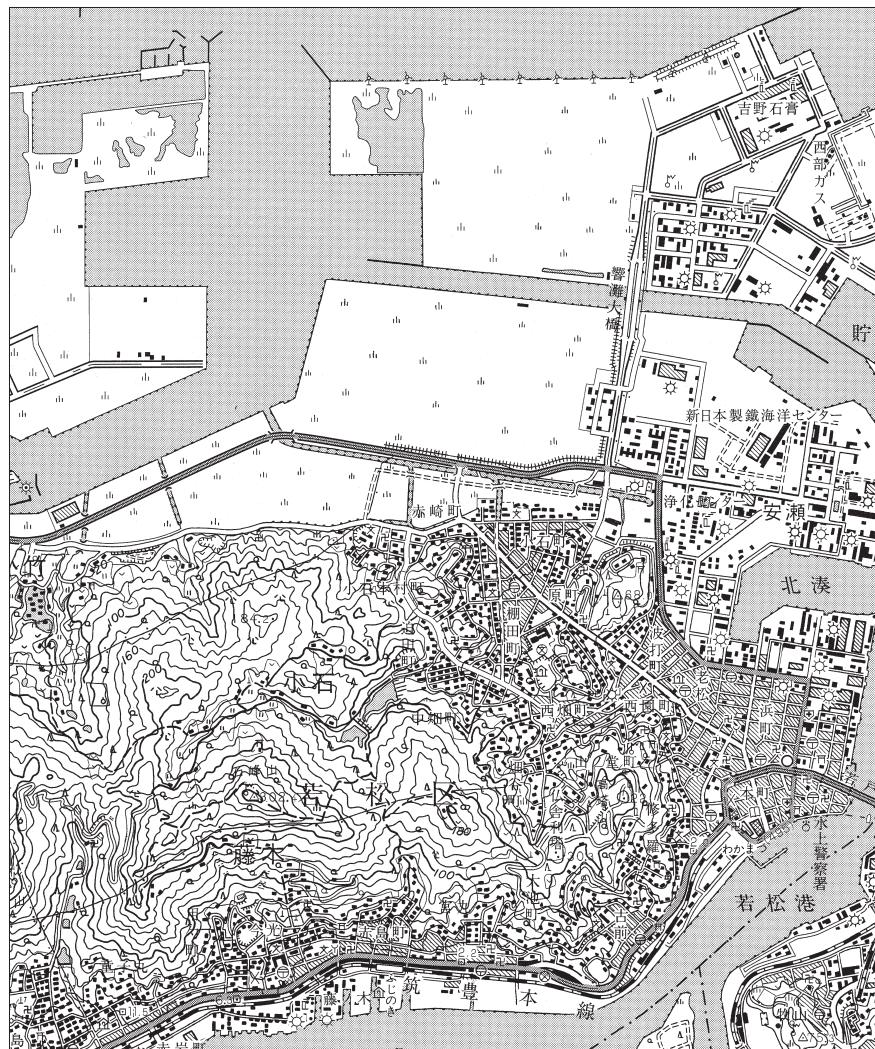


(国土地理院発行 50,000 分の 1 地形図「小倉」平成 20 年発行などによる)

- ① A中の志賀島へと通じる海の中道では、北部に砂浜が発達している。
 - ② B中の洞海湾の周辺には、工場が集中しており、煙突が見られる。
 - ③ C中の平尾台周辺には、いくつもの窪地があり、火山の噴火口が見られる。
 - ④ D中の関門海峡の本州と九州の間は、橋やトンネルなど複数の移動手段がある。

問 2 ヨシキさんは、北九州市若松区を調べるために資料3と資料4を得た。資料3の地形図を基に、資料4中のア～エの各地点における地形の特徴として不適切なものを、あの①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **18** 。

資料3



(国土地理院発行 50,000 分の 1 地形図「小倉」平成 20 年発行による)

(A)

資料4 若松区の土地条件に関する地図

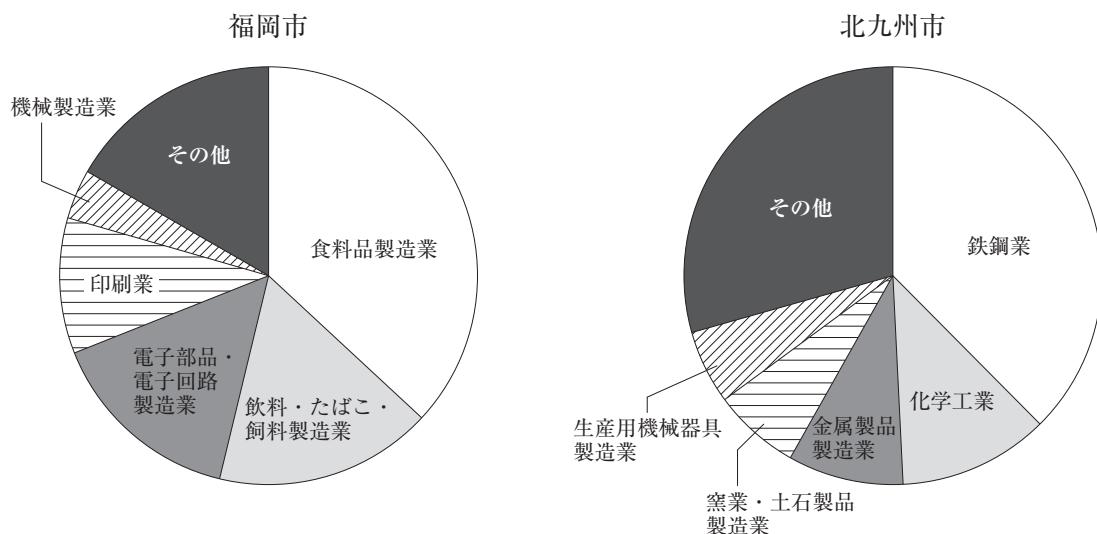


注) その他(図中の白色)を除き、資料4中の同じ凡例は、同じ土地条件であることを示している。
(地理院地図により作成)

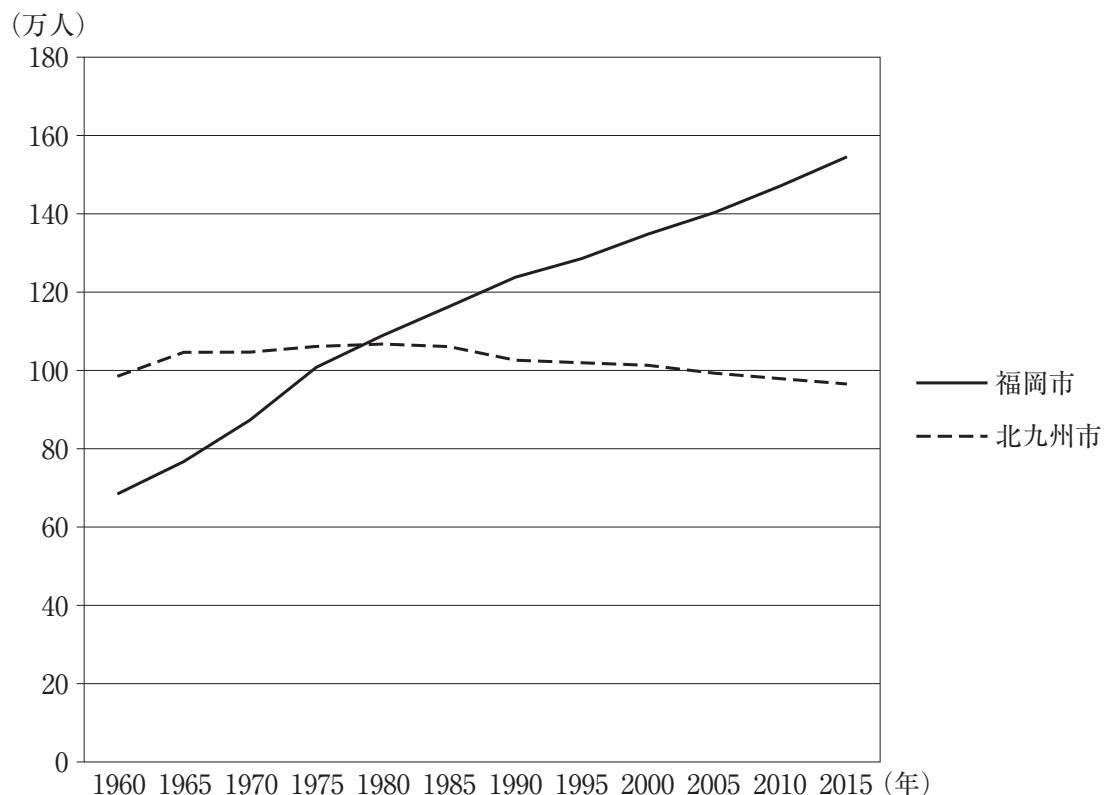
	地点	各地点における地形の特徴
①	ア	人工的に埋め立てられた土地
②	イ	山地や丘陵などの傾斜地
③	ウ	人工的に切取られて造成された平坦地
④	エ	元の波打ち際にあった微高地(浜堤)

問 3 ヨシキさんは、九州北部の政令指定都市である福岡市と北九州市に興味をもち、資料5～資料7を得た。これらの資料を読み取った文として最も適切なものを、あとの①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **19** 。

資料5 福岡市と北九州市の製造品出荷額の産業別割合(2012年)



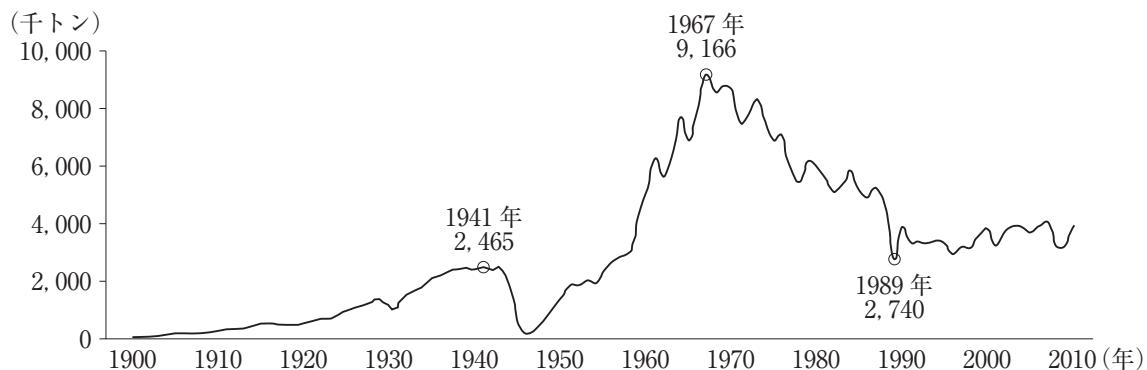
資料6 福岡市と北九州市の人口推移



注) 1960年の北九州市の統計は、合併以前の若松、八幡、戸畠、小倉、門司の5市を合わせた人口を示している。
(福岡市ホームページなどにより作成)

(A)

資料7 八幡製鉄所(北九州市)の粗鋼生産量の推移(1901年～2010年)



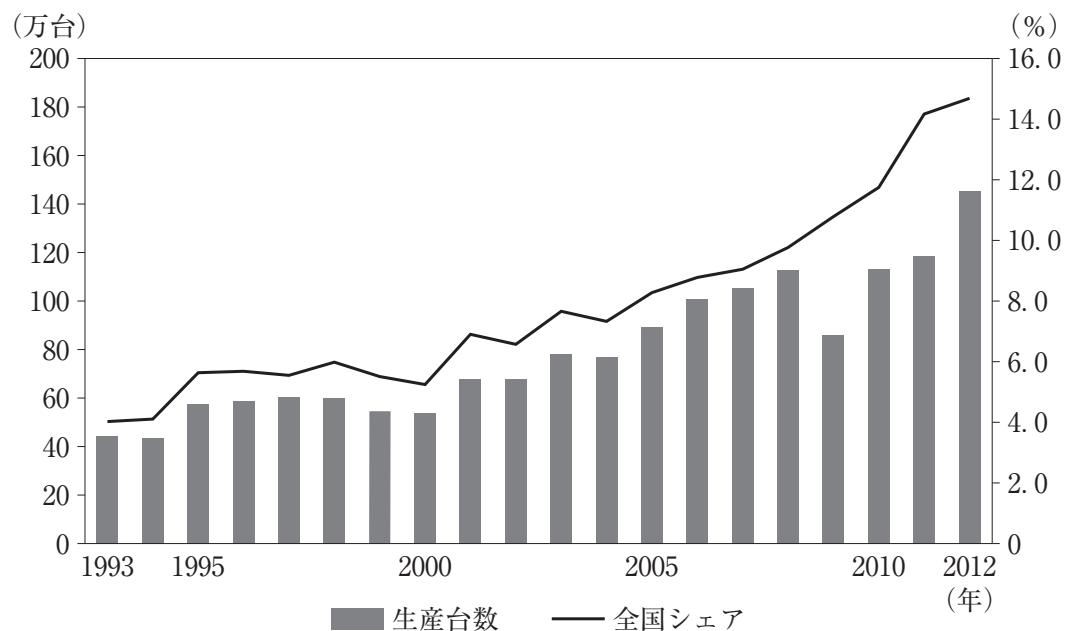
注) 官営製鉄所から新日本製鐵株式会社八幡製鐵所までの統計を示している。

(『「近代遺産」にみる国家と地域の関係性』による)

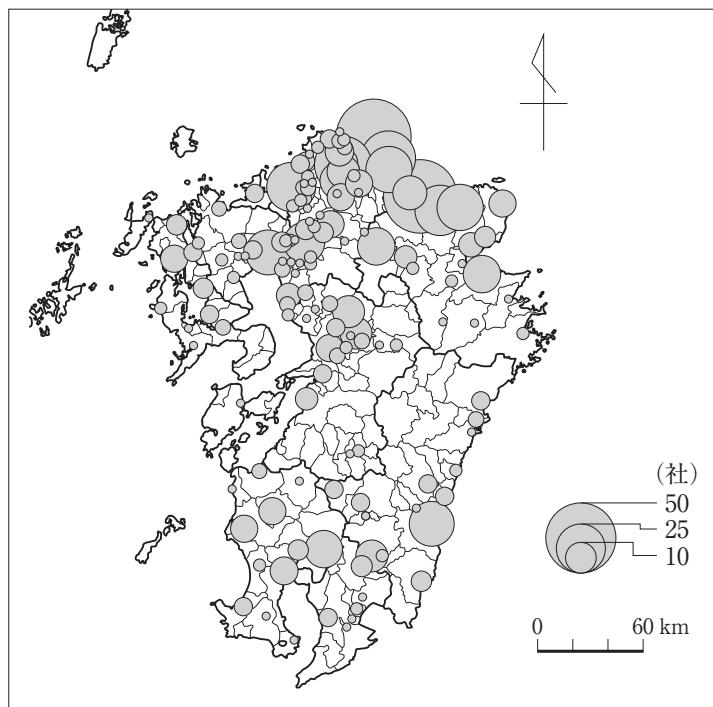
- ① 資料5から、福岡市の製造品出荷額では、「食料品製造業」や「飲料・たばこ・飼料製造業」が多く、2項目で全出荷額の80%以上になる。
- ② 資料6から、福岡市の人口は年々増加しており、1960年と2015年の人口を比べると3倍以上に增加了。
- ③ 資料7から、八幡製鉄所の粗鋼生産量は、1941年と1967年を比べると5倍以上に增加了。
- ④ 資料6と資料7から、八幡製鉄所では1967年から1989年までの粗鋼生産量が減少傾向にあり、北九州市の人口は1980年頃をピークとして減少している。

問 4 ヨシキさんは、九州地方の自動車生産に興味をもち、資料8～資料10を得た。これらの資料を読み取ったり、推察したりした文として最も適切なものを、あとの①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **20**。

資料8 九州地方における自動車生産台数と全国に占める割合の推移



資料9 九州地方における自動車関連工場数と分布(2014年)

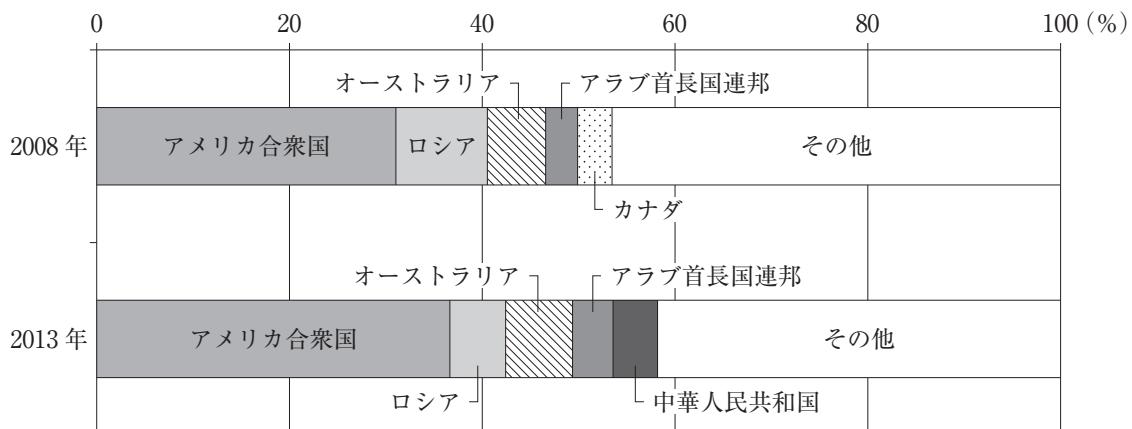


注) ・自動車関連工場とは、自動車の部品やタイヤを製造したり、組み立てたりする工場を示す。
 ・島嶼部などの自動車関連工場の立地していない地域については、資料9に示していないものもある。
 (九州経済産業局資料により作成)

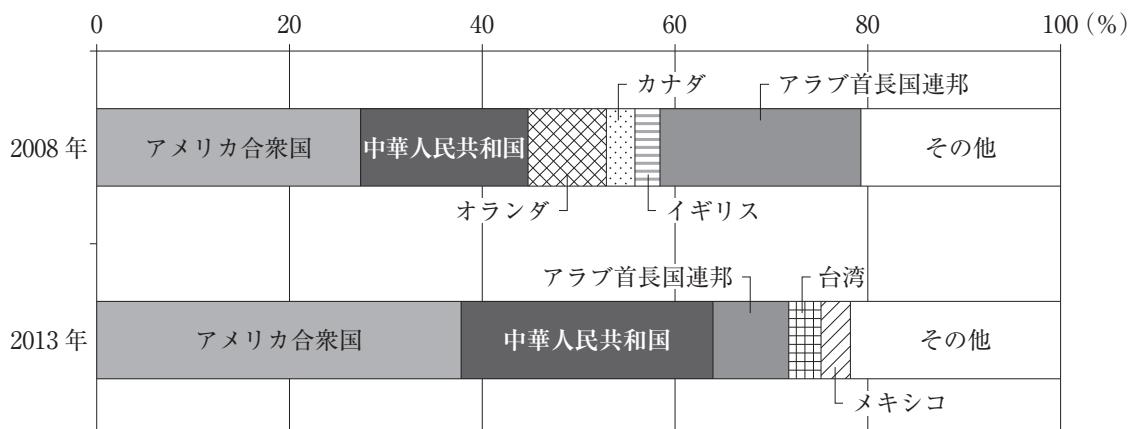
A

資料10 日本全国と九州地方における自動車輸出相手国・地域の変化(2008年と2013年)

日本全国



九州地方



注) 中華人民共和国には台湾、ホンコン、マカオを含まない。

(九州経済産業局資料により作成)

- ① 資料8から、九州地方における自動車の生産台数と全国に占める割合は、いずれも2005年以降一貫して増加している。
- ② 資料9から、九州地方における自動車関連工場は、沿岸部より内陸部に多く立地しており、特に九州地方北部と比べて、九州地方南部に工場の集積が著しい。
- ③ 資料10から、2008年と2013年を比較して、日本全国ではアメリカ合衆国への自動車輸出に占める割合は増加したものの、九州地方では減少した。
- ④ 資料8と資料10から、2008年以降、九州地方の自動車生産の全国に占める割合が増加した一因として、中華人民共和国への輸出が増加したことが考えられる。

(これで地理Aの問題は終わりです。)